

# 平成27年度学校評価実施報告書

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
1	<p>総合学科の柔軟な学びのシステムを活用した多用な教育活動を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業までの継続性を見通した計画的なガイダンスを実施する。</li> <li>学力のより一層の定着をめざし、50分授業に合わせた授業展開、教材の工夫を行う。</li> <li>1年次2年次の「未来探索」の単位数変更に伴う未来探索の再構築を行う。</li> <li>学校外の学修の一層の参加を促し、体験的な学習の機会を拡充する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より継続性を強化したガイダンスを実施できたか。</li> <li>新たな校時割、カリキュラムに対応した授業展開、教材の工夫ができたか。</li> <li>新たな3年間の継続性を持った「未来探索」の授業を構築できたか。</li> <li>学校外の学修への参加が増加し、学習態度および意欲の向上が見られたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の90分授業から50分授業への校時割変更は、大きな問題もなく移行することができた。(学務)</li> <li>授業展開では、それぞれの授業で生徒が自ら主体的に学ぼうとする態度の育成や日常的な学習習慣の定着をめざし授業改善に取り組んでいる。(学務)</li> <li>前期で校外講座6件、技能審査11件、就業体験活動19件の単位認定を行った。(学務)</li> <li>年次に関係なく多くの生徒が学校外の学修に参加しており、体験的な学習の機会を拡充できている。(学務)</li> <li>1年次では、未来探索の取組みを発展させた進路ガイダンスを行い、生徒の動機付けを高めることができた。また、昨年度の実施内容を見直し密度の高いキャリア教育を展開することができた。(キャリア形成支援)</li> <li>2年次では、今年度新たに「働き方を知る/考える」の単元を設け、職業意識の高揚を図り効果があつた。(キャリア形成支援)</li> <li>2時間連続授業を活用し、校外授業や外部講師による講演会等を実施することができた。(健康福祉系列)</li> <li>実技教科では、実習に充てる時間数が増え連続授業の途中で休憩時間が入ることにより効率的に展開できた。(情報ビジネス系列)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての生徒の希望を満たせるような時間割の作成は難しいが、より生徒のニーズに合った時間割の作成に努める。(学務)</li> <li>授業改善のための授業研究等に関して組織的な取組みに発展させるための効果的な方法について検討する。(学務)</li> <li>生徒は単位認定を第一目的とする傾向がある。自らの興味や関心に基づき、主体的・積極的に参加することを促すようはたらきかける。(学務)</li> <li>年次ごとの成長過程にあつたキャリア教育を実施し、次年度へつなげる組織的な取組みを定着させることが急務である。(キャリア形成支援)</li> <li>ガイダンス科目の内容について、全職員で取り組み、同じように指導するためには一層の工夫が必要である。(キャリア形成支援)</li> <li>今後は生徒の主体性を伸ばすため、アクティブラーニングを積極的に取入れることが必要である。(健康福祉系列)</li> <li>連続授業であっても、1コマ50分の中での展開を精査しより効率的に展開できるように改善することが必要である。(情報ビジネス系列)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県立高校3期12年に及ぶ改革案が発表され、教育の現場にもグローバル化に備えた指導が求められる時代となった。偏差値によって目指す学校が決まるのではなく、将来何をしたいのか、どんな人生をつくって行きたいのか、そのための学校としての鶴見総合に期待を寄せます。現状の「チャレンジと検証の方法」により実現して行くこと期待しています。</li> <li>今の生徒は自分が関心を持ったことには昔の生徒以上に積極的で、奥が深いところまで取組めます。反面、情報過多のなかで、マイナスの情報も多く入ってくることで、関心をもてなくなってしまう原因と思われれます。そのことに配慮した指導が不可欠だと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>90分授業から50分授業へ移行したことにより、生徒が落ち着いて学習に取り組むようになった。</li> <li>授業改善は、教科内での取組は行われているが、組織的な取組までいっていないのが現状である。来年度に向け、効果的な組織的授業改善を推進することが必要である。</li> <li>校外活動に対する単位認定は、修得する生徒が年々増加している。卒業単位を補填するために校外講座等に参加する生徒もいるため、トラブルに発展することもあつた。来年度に向け、自分の進路実現に向けた興味関心のある講座を受講させるように参加条件等を整備することが必要である。</li> <li>年次ごとのキャリア教育は、前年度の反省を踏まえ、工夫することで効果が現れてきている。進路未決定者を出さないために、1年次から2年次へ、さらに3年次へと継続・発展したキャリア教育の体制整備を進める必要がある。</li> </ul>

2	<p>基本的な生活習慣の確立を図り、自立・自律した生徒を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動のより一層の活性化を図る。</li> <li>・適切な服装や頭髪できちんと授業を受ける。</li> <li>・遅刻指導に力を入れ、遅刻者の大幅な減少をめざす。</li> <li>・保健行事等を通して、心身の健やかな成長を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の主体的な参加に広がりが見られたか。</li> <li>・授業不要物指導、服装頭髪指導の件数が減少したか。</li> <li>・遅刻回数が減少したか。</li> <li>・保健講話等に生徒は真摯に取り組めたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期球技大会において、招集方法を変更したことで、集合時間を守る生徒が増加し効率的な運営が可能となった。(活動支援)</li> <li>・部活動加入率は、昨年より下回った。(活動支援)</li> <li>・生徒指導の件数は昨年度より減少した。(生活支援)</li> <li>・4月は1年で「身だしなみセミナー」、5月は1年で「携帯電話教室」、9月は「薬物乱用防止講座」、11月は2年で「性感染症防止講座」を実施し、社会で生きていく力の育成に努めた。(生活支援)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期球技大会に向け、実施種目・エントリー方法等を検討し、さらなる効率的な運営を目指す。(活動支援)</li> <li>・来年度に向け、部活動に係る予算を検討し、個人負担を軽減し、参加しやすい環境を整える。また、活動実績を本校ホームページに掲載するなどの外部発信を行う。(活動支援)</li> <li>・特別指導ゼロを目指して、生徒の理解と認識を向上させるとともに組織的な生徒指導を確立する。(生活支援)</li> <li>・各種研修講座の内容に関する理解や効果について検証するため、アンケートを実施し今後の講習実施に活用する。(生活支援)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全教室については、自分たちが加害者になる危険に踏み込んで指導して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会行事の運営では、昨年度の反省を踏まえ、効果的かつ効率的な運営を行った。また、生徒会役員生徒を指導し、生徒主体の運営を行った。</li> <li>・部活動の加入率を増加させ、部活動を活性化させることが急務である。来年度に向け、効果的な手立てを考え実施することが必要である。</li> <li>・生活指導面では、頭髪服装検査の実施方法を検討し、検査前の一週間を声かけ週間として設けるなどの工夫を行い、効果的な指導が実施できた。</li> </ul>
3	<p>基礎学力の向上及び、個に応じた学習意欲・知識・技能の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての科目で学び直しの推進を図り、基礎・基本的な知識・技能を定着させる。</li> <li>・補習講習を行い、個々の生徒に合わせた学力支援を行う。</li> <li>・学事システムの円滑な運営を図る。</li> <li>・きれいで落ち着いた学習環境を維持する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や定期テスト等で基礎学力定着を検証する。</li> <li>・補習講習の開講数、参加生徒数は増えたか。</li> <li>・学事システムを効果的に運用できたか。</li> <li>・清掃を通して生徒の美化意識を高め、衛生的な環境を維持できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語、数学、英語等の教科では基礎学力の向上を感じることはあるが、まだ具体的な数値検証はされていない。(学務)</li> <li>・開講教科数が増えたことで、1講座の受講者は減少したが、複数の講座を受講する生徒が増加した。鶴総みらい塾の開講講座数 16 講座、参加生徒数延べ 80 人。(学務)</li> <li>・「月別出欠状況一覧表」や「講座出席簿」で生徒の出欠席の再確認が明確になり、「考査素点票」で生徒の定期考査の点数ミスを防げた。(学務)</li> <li>・語彙の充実を図るために必履修のすべての授業で、漢字テストを定期的実施することができた。(国語科)</li> <li>・1年次では、教科書の学習とは別に、中学での学習の復習を時間内に入れ込むことができた。(国語科)</li> <li>・基礎学力定着のための授業やテストを行うことができた。(国際文化系列)</li> <li>・世界史の授業では、基礎となる世界地図を単元ごとに利用することで理解を深めることができた。(社会科)</li> <li>・実技テストの実施と、そのための家庭学習の課題を設定した。(家庭科)</li> <li>・実技科目では補習を行い、作業の遅れを最小限にするよう努めた。(家庭科)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力向上の検証方法について効果的な方法を検討し、1年目の検証を実施する。(学務)</li> <li>・受講したい講義が重複してしまつて受けられない講義があったため、次回からは対象年次の講座が重ならないように工夫する。(学務)</li> <li>・一部の生徒には、漢字学習に対する意識が高まったが、すべての生徒の意識を高めることが課題である。また高得点を取ることに喜びを感じられるような指導も併せて必要である。(国語科)</li> <li>・復習確認に多くに学習時間を必要としない生徒に対して別教材を与えるなどの手立てが必要である。(国語科)</li> <li>・テストを行わない科目でも、授業内で基礎学力定着を図るため、個々の生徒に合わせた補習や講習を実施するなどの手立てが必要である。(国際文化系列)</li> <li>・地図上の国や地域についての位置等の知識が少ないため、白地図等を活用し国名や地名を丁寧に示す必要がある。(社会科)</li> <li>・作品等の製作を行う授業では、補習してくれることが当たり前、という気持ちで授業に臨む(あ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の取り組みで、特にきめ細かな対応を実践していることがすばらしいと思います。</li> <li>・基礎学力を身につけさせるために、いろいろな工夫をされていると思いますが、単なるパターン学習暗記などになりがちかと思えます。ITを駆使した視覚に訴えるような工夫に期待します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科で基礎基本の定着を目指すため、小テストの実施やノート提出、中学校の学習内容の復習などを行い一定の成果を得ることができた。</li> <li>・中学校の学習内容の復習は、生徒個々に個人差があり、復習が必要ない生徒に対する対応について何らかの手立てを構築する必要がある。</li> <li>・基礎学力の定着を図る補習講座を多く開講することができ、複数の講座を受講する生徒が増加した。生徒が受講したい講座の開講日が重複することもあり、希望する講座を受講できない生徒もいたため、来年度に向けて工夫をしていきたい。</li> <li>・宿題を与えたり、次の授業までに準備する課題を与えたり、家庭学習の定着を図ったが、十分効果があったとはいえ、来年度に向けて効果的な方法を、個々の教科担当が考えるのではなく、教科内で検討することも必要である。</li> </ul>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境などについての基礎基本的な知識定着のための授業やテストを科目「環境科学入門」で行うことができた。(環境科学系列)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あるいは欠席する)生徒もいるため、授業時間中の指導を改善する必要がある。(家庭科)</li> <li>・より深い知識定着を図るための手立てを工夫するとともに、個々の生徒に合わせた、補習講習を実施し併せてそれを検証する。(環境科学系列)</li> </ul>		
4	<p>キャリア教育を充実させることにより一人ひとりの進路実現を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来探索を中核とするキャリア教育をより一層推進し、生徒の自己肯定感と自己有用感を育成する。</li> <li>・進路実現に向けて、個別指導を組織的に行う。</li> <li>・3年次において、成績処理業務を精選し、校内推薦の手順も整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会を通して、生徒が学習成果を実感し、共有化できたか。</li> <li>・進路先決定者の率の増加が見られたか。</li> <li>・新たな成績処理業務、校内推薦手順を事故なく運用し、進路指導の充実が図れたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究発表会では、例年に比べて生徒のプレゼン能力が高まり、深まりを感じさせる発表であった。(キャリア形成支援)</li> <li>・就職活動に取り組む生徒数は例年比減少したが、労働市場の好況もあり、内定率は高まっている。(キャリア形成支援)</li> <li>・2年次生を含め、サポートティーチャーを活用し進路支援を充実させた。(キャリア形成支援)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の指導力を高めることで、研究発表の内容の更なる深まりを期待できるとともに、発表代表の決定後の指導も効果的に行うことができる。(キャリア形成支援)</li> <li>・進路活動に消極的な生徒のモチベーションを高め、進路決定率 100%を目指す組織的なキャリア教育の推進が急務である。(キャリア形成支援)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、課題研究発表会や体育祭などを拝見し、生徒のプレゼンテーション能力の高さと意欲に驚かせられました。誇れる特性なので大切に育てて欲しい。</li> <li>・年々プレゼンテーション能力が向上していることに驚かされました。堂々とした態度や、人を巻き込むような演出なども考えられていて、興味を持ったことに対する積極的な姿勢が感じられます。挨拶や身だしなみ、けじめなどにもみなが配慮できるようになれば申し分ないと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の充実と進路未決定者をださないため、サポートティーチャーを活用し、成果を得ることができた。初めての制度であったため、教員側に戸惑いもあり、十分活用できたとは言えず、来年度もサポートティーチャーを雇用することを見据え活用方法を検討していきたい。</li> <li>・課題研究発表会や未来探索発表会では、生徒のプレゼンテーション能力も向上し、外部招待者からも一定の評価を得ることができた。</li> </ul>
5	<p>地域とのより一層の連携を進め、開かれた学校づくりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上級学校、事業所、福祉施設等の学校外の教育関連機関との連携の充実・発展に努める。</li> <li>・様々な機会をとらえて、地域貢献活動を積極的に取組む。</li> <li>・本校の特色ある活動を、積極的に情報発信していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部と連携することで学習内容を深めることができたか。</li> <li>・地域での連携した活動をふやすことができたか、内容の充実化が図れたか。</li> <li>・本校公式HPや学校説明会、および学校外の資源を活用する授業や部活動を通じて、本校の特色について多くの中学生、保護者、地域の方に理解してもらうことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月に一年次を中心に学校周辺の清掃を行った。生徒の地域貢献に関心を持たせるきっかけとなった。(研究広報)</li> <li>・合同説明会や中学校の進路説明会に参加し、本校の特色について多くの中学生、保護者に理解してもらうよう努めた。体験教室等の募集を行うなど積極的にHPを活用し、情報発信をすることができた。(研究広報)</li> <li>・ジョブシャドウイングでは神奈川県職業能力開発協会と、平日学校・職場訪問ではマイナビを通じてさくらノートと連携し、新たな訪問先を確保することができた。(キャリア形成支援)</li> <li>・PTA活動の活性化と充実を努めた。その結果、特に成人教育委員会の体験教室の参加者は、前年比で50%以上増加した。(総務管理)</li> <li>・鶴見市場地域ケアプラザと連携し、継続した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に1回の地域清掃に参加するだけではなく、地域の一員としての意識を生徒に持たせ、かつ高めて行くため取組みを企画し実施することが必要である。(研究広報)</li> <li>・説明会では、視聴覚教材を活用するなど、より本校の特色を理解してもらう方法を検討していきたい。またHPではよりスピーディに情報の発信に努めていきたい。(研究広報)</li> <li>・参加生徒の動機付けを高め、キャリア形成の向上を図るために、事前事後指導の方法に工夫が必要である。(キャリア形成支援)</li> <li>・PTA体験教室の一層の充実化を図るため、バラエティに富んだ講座を企画するとともに、生徒とのふれあいの場も設けるなど、保護者が興味関心を持つ企画を提案して行きたい。(総務管理)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロータリークラブでは、中学校教員の職場体験や、会員による出前授業など継続支援を行っているので、ジョブシャドウイングなどで気軽に活用して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回(9月)に全校一斉の地域清掃を実施している。地域貢献に対する関心度は高まってきているが、この活動以外にも、地域との連携を深め地域と協働した活動を展開するように企画を進めていきたい。</li> <li>・公私合同説明会では、スライドの投影などの工夫を行ったが、スライドを使用した全体説明をおこなうことができなかった。来年度に向けて、時間帯を決めて全体説明会を実施し、その後個別相談に7移行できるように工夫することが必要である。</li> <li>・学校説明会では、生徒主体の説明会を実施し、中学生に本校の特色を発信することができた。</li> <li>・ジョブシャドウイングでは、外部と連携し、多くの訪問先を開拓することができた。来年度に向けて、事前、事後指導を徹底しさらに効果を</li> </ul>

				<p>現場実習を実施することができた。(健康福祉系列)</p>	<p>・生徒の実態に合わせた実習内容の精査が今後必要である。(健康福祉系列)</p>		<p>上げたい。</p> <p>・PTAとの連絡を蜜に行い、スムーズな運営を行なうことができた。学校行事等の保護者の参加率の向上を目標にさらなる連携を図って行きたい。</p>
6	<p>より良い教育を行うため、体制整備を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校関係者評価や各種アンケート調査を学校経営に活用する。</li> <li>・ホームルームのあり方を検討し、年次指導の充実を図る。</li> <li>・業務の合理化、効率化に向けて検討し、実行する。</li> <li>・事故・不祥事防止に努め、保護者や地域から信頼される学校づくりを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評議員会や各種アンケートを実施し、その結果を踏まえ、平成 28 年度からの中期目標を作成できたか。</li> <li>・職員間での情報共有化を進め、生徒理解、生徒支援に活用できたか。</li> <li>・業務の合理化、効率化が進んだか。</li> <li>・事故・不祥事の防止ができたか。</li> <li>・適正な私費執行に努めたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の職員に業務が集中しないように割り当てられた業務を分担し、かつ協力しあいながら合理的に進めたことで、業務の効率化を図ることができた。(学務)</li> <li>・定期試験業務に関しては、試験ごと全職員に対して校内研修会を実施し、業務の確認を徹底し事故防止に努めた。(学務)</li> <li>・複数の眼で数字のチェックを複数回行ったことにより、要録の点検、調査書や証明書の発行は迅速に行えた。(学務)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各職員が業務内容を的確に把握し、能率よく、かつ効果的に行うために、職員一人ひとりが業務全体を把握し、積極的に協力し合うことが必要である。(学務)</li> <li>・試験業務や通知書の発行など、絶対に事故が起こらないよう、さらなる方策を具体的に検討し、校内研修等も定期的を実施する。(学務)</li> <li>・教科担当者、教科・系列、年次、グループが連携し、各段階の点検者が責任を持って詳細にチェックする意識を持つことが必要である。(学務)</li> <li>・成績入力ミスを防止するため、読み合わせを実施するとともに複数の目で確認させる。(学務)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方が忙しすぎないこと、少しでも改善が進むことを願っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校改革に合わせて、中期目標の策定は見送られた。来年度本校に提示されるミッションをうけ、魅力ある学校づくりに向けた目標を、来年度に向け策定していきたい。</li> <li>・特定の職員に業務が集中しないように、各グループで業務分担を行ない効率的な業務運営を行なうことができたが、特定の職員に業務が集中してしまう傾向は残ってしまった。一人ひとりが、業務全体を把握し、公務はすべて組織で動く体制を確立することが、職員の健康管理を含めて急務である。</li> <li>・定期試験前の実施手順や成績処理手順をマニュアル化したことで事故防止につながった。</li> <li>・私費会計では、私費会計基準に則った適切な会計処理に努めた。</li> </ul>